

宝塚市自立支援協議会 専門部会「しごと部会」

令和元年度活動経過報告

I 開催日時	第1回	2019年5月16日	出席者16名	13:30~15:00
	第2回	2019年7月18日	出席者15名	13:30~15:00
	第3回	2019年9月19日	出席者16名	13:30~15:00

II 要旨

① 第1回しごと部会（2019年5月16日）

○今年度の委員体制について

- ・新任委員も含めて自己紹介を行う。今年度より事務局担当に加えて、障害福祉課よりソーシャルワーク担当が各専門部会に委員として出席するとの報告を行った。また、障害福祉課の福祉計画担当より、計画の見直しを行うにあたって、各専門部会の協議の内容を確認していきたいとの説明があった。

○報告事項

・昨年度末全体会の報告

前年度2回目の全体会では試験的に講演を行わず、各部会の報告と意見交換のみでプログラムを構成した。各部会の30年度を通しての活動内容と今後の展望についての報告があった。

・共同受注窓口について

前年度1年間を通しての実績報告を行った。3月末までの数値は確定していないが、およそ340万から350万の実績になると思われる。市からの補助金については、現在調整を行っており、補助金の使途としては専任スタッフを1名採用することと、グッドジョブとしての事務所を設けていく事を想定している。現在グッドジョブに参加している事業所は26か所あり、今後新たに2か所増加する見込みである。

西宮市・尼崎市・宝塚市3市の共同受注窓口で連絡会を開催し、市同士での動きを確認していく。また、店舗での出店やイベントなど2、3か月に1回くらいの頻度で顔を合わせ、連携を深めることを考えている。西宮市の共同受注窓口に参加している事業所は就労継続支援B型が中心となっているが、宝塚市と同様に地域活動支援センターや生活介護事業所も参加している。

前年5月から一般社団法人となり、11月には設立記念式典が開催された。

グッドジョブの設立経緯を改めて部会の中で確認した。

- ・宝塚健康福祉事務所としては、グッドジョブを介してチラシ配布を依頼した事もあった。グッドジョブに参加している5事業所の間で、それぞれの作業量の調整を行った。1つの事業所では大口の発注を受けることが困難であるが、複数の事業所で割り振れば受注が可能になる。（共同受注窓口の1つのメリットである）
- ・民間企業と共同受注窓口との間で、受注価格に差はあるのか。

⇒業種毎に相場は考慮している。福祉事業所であるから必ずしも安価という訳ではない。

- ・ポスティング作業は誰が担うのか。

⇒各事業所の利用者とスタッフで担っている。以前、市より市内全戸配布の仕事を請け負った。13事業所が参加し、2か月で配布を完了した。

○今年度の年間計画について

例年実施している福祉事業所合同説明会・雇用啓発セミナーは今年度も継続する。

合同説明会に関しては今年度は8月末の平日に実施するという案が挙がった。例年は9月末の土曜日に開催していたが、学校の運動会や他のイベントと重なっているとの意見があったためである。

(参加委員より)

- ・兄弟がいる方に関しては、他のイベントと重なると片方には行けなくなるので、重なりにくい8月開催の方が良いのではないかと。
- ・平日に開催すれば、事業所のスタッフも参加しやすくなるのではないかと。
- ・平日だと就労している保護者は参加しにくいのではないかと。
⇒例年との参加人数の比較を行う。特別支援学校でのチラシ配布は例年9月の始業式から行っているが、8月開催となれば配布も早めに準備をする必要がある。
- ・土曜日開催の場合は両親が揃って来ている事もあったが、平日であるとそれは難しくなるのではないかと。

※今年度は8月末の平日での開催を部会の中で提案し、決定となった。

8月最終週もしくはその前週で開催日を調整する。

雇用啓発セミナーに関しては、例年通り2月中の平日での開催を予定。従来、企業のさらなる障害者雇用の促進に向けた啓発内容であったが、今回は当事者の目線に重点を置き、当事者と事業者のディスカッション形式で進めていく内容を想定している。働く当事者、雇用主の双方の気付きとなるような内容になればと考えている。詳細は今後検討していく。

(参加委員より)

- ・今年度、就労促進大会を2月に予定している。

平日での開催を想定しており、しごと部会のセミナーと重ならないよう日程を調整する。

○今年度のテーマについて

しごと部会としては、「他専門部会との横断的な取り組み」を今年度のメインテーマとして考えている。他の専門部会でもしごと部会とリンクするものや、連携して考えていくべき内容がある。けんり・くらし部会では、日中活動、退院・退所後の活動をどうしていくか、こども部会では、18歳を迎えてからの移行期の支援と関係機関との連携をどうしていくか等、共に考えていけるのではないかと。今年度は取り組みのきっかけを作っていく、次年度明確な形になるようにと考えている。

(参加委員より)

- ・しごと部会の内容は分かるが、他の部会となると詳しくは分からない部分もある。
 - ・それぞれの部会が交わる機会があって良いのではないか。
 - ・各部会の協議が繋がっていくと、新しいアイデアが生まれることも期待できる。
 - ・障害福祉課のソーシャルワーク担当者が各部会に入っていくことで出せる意見もあるのではないか。
 - ・他部会の内容も知ることで自身の知識や考えの幅が広がる。
 - ・共通のテーマを設定し、各部会のペースとすり合わせが上手くいけば良い。
 - ・各部会の中にそれぞれ当事者と関わるテーマがある。こういった取り組みは必要だろう。
 - ・横の繋がりが現状希薄であると思う。もっとお互いに知り合っていくべき。
- ※今年度のしごと部会のメインテーマは「部会同士の横断的な取り組み」として協議を進めていく。

② 第2回しごと部会 (2019年7月18日)

○報告事項

- ・第7回福祉事業所合同説明会について
- ・作業部会を立ち上げ、準備を進めている。例年は9月末に開催していたが、今年度は8月26日(月)の開催を予定している。
- ・市内の一部の小学校では26日に始業式が行われるため、日程が重なってしまうことになるが、説明会は午後であるため、始業式終了後に足を運んでくれるかもしれない。
- ・特別支援学校には既にチラシを配布している。
- ・13時の開場までには、会場準備を完了する。例年通り来場者への記念品配布も実施する。
- ・市内の各事業所には、参加申込みの発信を行っており、少しずつ返信が来ている状況。参加事業所数が確定すれば、それに応じた会場内レイアウト図を作成していく。事業所の数に応じて説明ブースと販売ブースの配置や規模を検討していく予定。

○共同受注窓口について

- ・市からの補助金について、細かな事項に関する協議を行っている。
- ・今年度はキャピリンピック(障害者運動会)の事務局を共同受注窓口グッドジョブが担当している。

(受注内容の報告)

- ・チラシにシールを貼る作業を受注し、2日の納期で5万枚を仕上げるという内容であった。納期までが短く作業量も膨大であったが、8事業所で分担して完了させた。
- ・花屋敷せいのりの里の「納涼祭」にグッドジョブとして出店を予定している。
7月27日(土) 18時半から20時半。グッドジョブとして9事業所が参加予定。

1 ブースは事業所のコーヒー販売、もう 1 ブースではアクセサリや雑貨類の販売を行う。

(委員からの質問)

・今年の事業展開の進捗はどうか。

⇒受注してくれる事業所は増えている。また、行政からの問い合わせも増えている。

・事業PRはどのように行っているのか。

⇒共同受注窓口の各理事が持つネットワークから受注に至っている事が多い。年間通して依頼をしてくれる企業との繋がりもある。ホームページ等は現状予算面での課題もあり、作成はしていない。

○検討事項

・今年度、しごと部会としては、「他専門部会との横断的な取り組み」をテーマとして考えている。これまで部会同士の交流や繋がる機会が無かった。

・しごと部会の主催で、福祉事業所合同説明会と雇用啓発セミナーの2つのイベントを毎年実施しているが、他の部会との交流は無い状況であった。三役会の中でも、現状のままでよいのかという意見が出ていた。

・例えば、こども部会とは成人期の課題として就労や日中活動をどうしていくかという繋がりが考えられる。けんり・くらし部会（地域移行Gr）とは退院後の日中活動や住まいの確保、けんり・くらし部会（地域生活Gr）とは医療や他機関との取り組み、社会資源の1つとしての結びつき等、必要と思われる連携の形は色々あるのではないか。

・しごと部会の中で、まずは上記の状況を踏まえ、横断的な取り組みについてまずは自由に意見を出し合う。

(各委員の意見)

・当事者として、退院して色々な事があっても、普通に生活したいという思いがある。仕事はハローワークで探そうとするがなかなか見つからない。障碍がいがあることを伝えずに就職するが続かないこともある。人との縁があり、現在の仕事に就いている。

・実際に他の専門部会と関わっている人は協議の内容などが分かりやすいだろうが、そうでない人は議事録を読んでもなかなかイメージできない。他の部会の方と直接話を聞いたり、ディスカッションをする事で、お互いに距離が近づくのではないか。

・何かに取り組みもうという時、各専門部会だけでやろうとしても上手くいかないのではないか。全体会等、広い範囲を見渡してくれている人達からの提案やテーマ設定に依じて、展開していく方が効果的だと思われる。各専門部会と全体会での両輪で考えてみては。

・それぞれの部会で課題や困っている事を募り、項目毎にピックアップしていくのはどうか。

・高齢の障碍がい者の世帯支援に関する課題についてケースを通じて知りたい。

- ・まずはいずれかの部会と連携してみるのもよいのでは。合同説明会の中に子どもに関する情報や高齢になった時のことを盛り込む等、他の部会との接点を作っていくのはどうか。ただ、それぞれの部会でテーマや進捗状況にも違いがあり、一口に連携と言っても難しい場合もあるだろう。
- ・他市のこども部会では各団体から困っている事を抽出した上でKJ法でまとめ、その項目毎にワーキングを実施していた。取り組みの例として情報をまとめた冊子やQ&A集の作成を行っている。部会の委員は福祉専門職だけでなく、さらに幅が広くてもよいと思う。1年以上の期間設定で取り組んでもよいのでは。
- ・全体会と各部会共通の議題があれば取り組みやすい。その議題について各部会で連携していくのはどうか。全体会から提案があり、それを各専門部会が支えていくイメージ。

③ 第3回しごと部会（2019年9月19日）

○報告事項

① 第7回宝塚市福祉事業所合同説明会の報告

- ・来場者、参加事業所からのアンケート結果を報告

今年度は平日での開催となったが、来場者数は例年の土曜日開催よりもやや多く盛況であった。平日のため相談支援事業所等、事業所関係者が多く来場した。

伊丹市・朝来市等他市の特別支援学校からも来場していた。

(当日参加された委員の方からの感想や意見)

- ・前年度は各ブースで一人ひとりの話を詳しく聞きすぎたためにアセスメント状況となり、時間が無くなってしまい説明を聞けなかった人もいたため、事前に事業所に向けて一人あたりの説明時間を短くし、多数の来場者へ対応ができるよう呼びかけた。
- ・準備や後片付けも参加事業所職員が積極的に協力しており、連帯感があつた。
- ・リハビリテーション病院のケースワーカー、他市（伊丹市、朝来市等）の特別支援学校、相談支援事業所、企業関係者等、様々な関係機関が来場したことで他市の情報等を知ることができ、関係機関のネットワークが広がる良い機会となったと思う。
- ・どのブースの説明を聞こうかと迷ってしまいがちな状況だったように思う。
- ・隣のブースで大きな声で説明をされていると、こちらの話が聞こえないとの意見があつた。
- ・配布された市内事業所一覧と当日の参加事業所は異なっているため、会場内を案内してくれる人がいるとよりスムーズになったのでは。

→今回は開催時期が早くなりチラシ作成から配布までの時間が短く、チラシ作成の段階では参加事業所が確定していなかったため、チラシには市内の事業所一覧を掲載する形となった。

- ・事業所の特色が一目でわかるものがあると良いのではないかな。

- ・会場内にホワイトボード等を使用し、参加事業所の配置をわかりやすくしてはどうか。
 - ・チラシを福祉センター、市の窓口、市内医療機関の待合室などに設置してはどうか。
→養護学校、精神科病院等にチラシを配布していることを説明した。
 - ・施設・事業所の数が少ない中、卒業後に利用できないとなった場合はどうするのか。
→個別に保護者、学校、相談支援が考えていく。こやの里特別支援学校では高等部から進路説明会を行っている。就労継続支援B型を利用する場合、アセスメントが必要である。なるべく早い時期から進路について考える必要がある。
 - ・就労継続支援Bは比較的に利用しやすいが、農作業等は見学だけでやめてしまう人もいる。
→宝塚市にも農作業を行う事業所はあるが、やはり作業のハードルは高いようである。
 - ・来場者向けのプレゼントは好評であるため、次年度以降も継続していく。
 - ・説明会に参加された人から、自分の事業所に利用希望の問い合わせがあった。
 - ・利用者が仕事を探す場所であると同時に、福祉事業所とのマッチングや雇用、当事者のニーズをリサーチに来る企業もあり、ビジネスチャンスを見出す場でもある。
- ※アンケート結果や参加委員からの意見を参考に、次年度の開催時期、チラシの内容や会場内配置等について検討していく。

②雇用啓発セミナー

2月5日（水）宝塚市西公民館にて開催予定。

今年度の講師は姫路市の「有限会社サポートセンターれいめい」から招く。

実際に働いている当事者と社長に話を伺う予定。

年内に広報用のチラシを作成し、配布を進める。

③ 共同受注窓口から

- ・今年度よりキャピリンピック（^{がい}障害者運動会）の事務局業務を行っている。
- ・12月の障害者週間記念事業の会場設営及びチラシ仕分けを受注予定。
- ・補助犬シンポジウムのチラシ仕分けも受注の見込みである。
- ・今年度より市上下水道局の植栽管理を受注している。
- ・7月13日～9月1日の期間市民プールにてアイスクリームの販売を行った。
一人の時給が500円程となった。

※次回の部会では上半期の受注実績と前年度との比較についての報告を行う予定。

○検討事項

今年度のテーマ「他専門部会との横断的な取り組み」について

- ・自立支援協議会全体の活性化を目的に、しごと部会が中核となり他の専門部会と協力・協働の動きを作っていきたい。
- ・各専門部会の委員の意見を聴取しつつ、計画を立てて確実に進めていく。

- ・ 障害者の高齢期へのスムーズな移行や、障害者と高齢世帯の問題を考えると、新たな専門部会として「高齢部会」等を立ち上げるべき、というような意見も出るかもしれない。

(参加委員より)

- ・ 時間をかけて新しい事に挑戦していくことに魅力を感じている。
 - ・ 他の部会のメンバーから意見を聞けることは有意義である。
 - ・ 現在、全体会は専門部会の報告の場となっている。本来、全体会は何かを生み出す場であり、今後は取り組むべき課題が見つかるような場となってほしい。
この取り組みから宝塚市の自立支援協議会が盛り上がっていけば良いと感じる。
 - ・ 自法人から自立支援協議会に4名携わっているが、法人内部では代表会で報告がある程度。他の専門部会のことを知らないといけないと感じている。
 - ・ 地域・利用者のニーズを知り、短時間でも働ける寄合窓口のようなものを作っていければよい。
 - ・ 今は情報は溢れているものの、隣に誰が住んでいるかは知らないような時代。地域の関係性が深かった昔に戻りたいと思うことがある。
住民力が希薄化している現在においても、障碍のある人もない人も住みやすい街を実現するための協議の場が自立支援協議会。自立支援協議会の活性化が、当事者や家族にとって良い生活に繋がっていくはずである。
- ・ 今年度下半期は、他専門部会委員の意識調査アンケートの作成を始める予定。
設問・構成等、まずは三役及び事務局で検討を進める。